

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ルサカ州チパパ周辺地域において、地域ぐるみで HIV 感染拡大を抑制し、必要なケア・サポート体制を確立する。
(2) 事業内容	<p>(イ) 自発的 HIV 抗体検査・カウンセリング (VCT) センターの建設 VCT センター建設は予定通り 4 月中旬に着工するため、建設業者との契約や郡保健局との同センター維持管理に関する覚書締結など最終調整を行った。</p> <p>(ロ) 住民グループによる持続的な HIV/エイズ対策活動支援 当該期間中に住民グループに対し 14 回のワークショップを実施し、活動は計画通りにすすんでいる。住民グループは HIV/エイズ対策にかかる啓発活動をチパパ地域で 29 回実施し、成果の指標値を越えるのべ 3,300 人以上の人々を啓発した。エイズ対策クラブの校内啓発や世界エイズデーにおいて各グループが積極的に啓発活動を行ったことが、目標を大幅に上回る成果に繋がった。</p> <p>1. 各住民グループが活動を効果的に実施するための知識や技術を習得するワークショップの開催 2 月に「ティエセコ若者グループ」が 25 名の若者により組織され、フェーズ 2 で選定した 11 グループに加えて同グループを支援することとし、「活動目標及び計画策定」ワークショップを実施した。 小中学校 6 校のエイズ対策クラブ(ルカマンタノ校、チパパ校、チポングウェ校、ヘティデネン校、マカングウェ校、セントパトリックス校)では 2011 年の活動評価を行い、2012 年活動計画を策定した。学校内各クラスをまわり啓発する巡回発活動は今年度も実施した。同活動を行うにあたり、当会は各クラブに対し、HIV/エイズの基礎知識を再確認し、また人前で話す技術に関するワークショップを実施した。複数ワークショップを実施した結果、実施前と比較して人前で大きな声で堂々と話すようになるなど、メンバーが啓発活動に自信を深めていることが確認された。</p> <p>家庭訪問看護グループは活動過程で生まれた課題を月に 1 から 2 回実施されている定例会にて共有され、グループ内で解決にむけた話し合いが行われた。2 月には当会が実施した「2011 年の活動評価及び再計画立案ワークショップ」にて服薬支援強化に向けた複数年に亘る活動戦略の再検討を行った。</p> <p>2. 各グループによる住民向け啓発及びケア・サポート活動の実施 若者グループは農繁期で活動のペースが落ちたものの、特に啓発の必要性が高いと判断したマペペ地区で HIV/エイズと若年妊娠・薬物・飲酒を関連づけた寸劇と討論会を実施した。実施の都度住民からの質問が増えるなど関心が高くなっている。</p> <p>12 月 1 日のエイズデーでは、計 9 グループが HIV/エイズに関するイベントを実施した。フェーズ 1、2 で実施した行進や寸劇だけでなく、飲食店でビデオ上映を行い、戸別訪問を実施するなど、各グループが効果的に HIV/エイズに関する知識を広めるための工夫を施すなどこれま</p>

	<p>での研修の成果が表れた。</p> <p>家庭訪問看護グループによる HIV 陽性者及びその家族に対するケア・サポート活動も計画通りに実施され、陽性者の家庭訪問を継続している。フェーズ 2 までに供与した 20 台の救急車カート及び自転車もクチャフワナ家庭訪問看護グループ、シマバラ地域保健委員会が 2～3 日に 1 回の割合で搬送サービスに利用していることが確認された。利用記録の徹底や使用料徴収がすすまず管理体制に改善の余地があるため、対策を検討している。</p> <p>3. 住民グループが活動を持続するための運営管理能力の強化</p> <p>8 つの住民グループ(ルカマンタノ校、チパパ校、チポングウェ校、ヘティデネン校、マカングウェ校、セントパトリックス校、クチャフワナ家庭訪問看護グループ、ティエセコ若者グループ)130 名に対し活動評価・再計画立案研修ワークショップを実施した。各グループで資金調達に取り組み、会費の徴収やイベントの開催、農作業の手伝いを通じて継続した HIV/エイズ対策活動が実施できるようグループ収入の向上に努めている。</p>
(3) 達成された効果	<p>(イ) VCT センター建設は 4 月中旬に着工するため、建設業者や郡保健局との調整を行った。</p> <p>(ロ) 成果①：6 校のエイズ対策クラブ、2 つの若者グループ及びケア・サポート活動を担う 3 グループが、各グループの活動計画に沿って啓発活動やイベントを 28 回実施し、約 3,000 人に対して HIV/エイズに関する知識を周知できた。</p> <p>成果②：家庭訪問看護グループ訪問先のほとんどの陽性者が定められた通り服薬できており、ARV 服薬にかかる問題の報告事例が減少した。他方、飲酒などの問題を抱える陽性者に対し、カウンセリングや病院への搬送が実施された。フェーズ 2 までに供与寄贈した救急車カート 20 台はすべて稼働している。3 月末までにチパパ、シマバラ 2 地域で計約 600 回の病院搬送を実施し、迅速な搬送の仕組みができつつある。</p> <p>成果③：フェーズ 2 で選定した 11 グループにティエセコ若者グループを加えた 12 グループのうち、8 グループがワークショップや定例会を通じて前年の活動評価を行った。この評価結果をもとに各グループが活動計画を策定し、活動を開始した。資金調達活動に関しては、全ての住民グループが取り組んでいる。当初同活動を予定していなかった学校のエイズ対策クラブについても、6 校中 5 校が活動費用を捻出するため資金調達活動を開始した。</p>
(4) 今後の見通し	<p>VCT センターは 7 月末の竣工を予定している。良質な VCT サービスが提供され、住民のアクセスが向上するための対策の検討をクリニック職員や住民グループと連携しながら、継続する。</p> <p>住民向け HIV/エイズ対策の啓発及びケア・サポート活動を順調に実施している住民グループには、啓発活動を継続するよう支援する。</p> <p>HIV 陽性者の支援を行うグループは、VCT センターを拠点とする。受</p>

検後、陽性者には、服薬支援やメンタルケアを実施できるよう地域一体となったケア・サポート体制の確立を目指す。

本事業期間は、3年事業の最終年となるため、持続発展性の確保のため全住民グループにリーダーシップ研修、グループ管理能力研修などを実施するとともに資金調達を確実に進めるよう支援する。